

別記

第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京都府知事	2019年 7月 22日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）
大阪市中央区久太郎町2丁目4番31号	取締役社長 岡崎 健二

環境マネジメントシステムの名称	環境目標（独自のシステム）
適用範囲	宇治工場・水戸工場・大阪本社・東京支店
導入年月日	2006年 8月 11日
認証番号	—
基 本 方 針	<p>常に地球環境に配慮して組織的かつ継続的に環境負荷の低減に努める。このため企業活動のあらゆる分野に於いて、積極的に環境管理レベル向上を目指すとともに、環境に調和した製品・サービスの提供に努める。</p> <p>1、関係法令、規則等の遵守 ・自主管理基準の設定と運用</p> <p>2、環境負荷の低減 ・環境に配慮した新製品の開発 ・資源の有効利用とリサイクル ・省エネルギーの推進</p> <p>3、地域の環境に共生した事業所の運営及び安全・健康の確保</p> <p>4、環境に関する社内体制の充実と教育・啓蒙</p>
環境に配慮した事業活動を自動的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<p>1、CO₂排出量の削減 原単位の削減 ・宇治工場、水戸工場について2015年度比3%の削減（※電力会社排出係数は2015年度を適用し一定とする）</p> <p>2、ゼロエミッションの推進、再資源化の向上 ①宇治工場：ゼロエミッションの維持 再資源化率99%以上 ②水戸工場：再資源化率0.3%向上 再資源化率95.6%目標</p>
目標を達成するための取組の内容	<p>1、照明LED化 2、高効率機器の導入（モーター、空調機など） 3、井戸揚水ポンプのインバーター化 4、乾燥機蒸気投入方法の変更 5、ボイラー着火回数低減による燃料削減 6、小型冷凍設備間欠制御化 7、生産計画調整による冷凍機運転効率化 8、昼休み時事務所内照明の消灯 9、不使用室内、箇所の照明停止 10、外出時・帰宅時のパソコン電源オフ徹底 11、ノー残業デーの有効活用 12、ゴミ分別廃棄の徹底 13、コピー用紙裏面紙利用の徹底 14、ペーパーレス化への取組み 15、事業系一般廃棄物の細分化 16、雑多ゴミ委託処分量の削減</p>
目標を達成するための取組の進捗状況	<p>1、照明のLED化推進、約386灯の更新実施（宇治工場、水戸工場） 2、真空ポンプモーター4台、空調機4台、空気圧縮機3台、送水ポンプ2台、排気ファン1台を高効率タイプへ更新（宇治工場、水戸工場） 3、1号井戸揚水ポンプのインバーター化実施 4、乾燥機の熱交換機について蒸気投入方法を変更、都市ガスの削減に貢献 5、ボイラーポンプ着火回数低減テスト実施するも、省エネには繋がらず断念 6、温度上昇が予想以上に大きく、冷凍庫冷却状態が悪化し断念 7、受注の大幅増により稼働率も大幅アップ、これにより稼働優先となり断念 8、昼休み時事務所内照明の消灯の徹底 9、不使用室内、箇所の照明停止の徹底 10、外出時・帰宅時のパソコン電源オフ徹底、声掛けし確認 11、大阪本社、東京支店によるノー残業デーの設定（1回/週） 12、紙リサイクルボックス利用の徹底、缶・ペットボトルの分別容器利用 13、裏紙使用専用ボックスの設置 14、管理資料のペーパーレス化（PDF活用） 15、細分化を推進し、更にリサイクル可能となり再資源化率向上（水戸工場） 16、 ※受付由來の雑多ゴミについて、運送会社に持ち帰りを依頼 ほぼ計画通りに取り組むことが出来ている。</p>
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	関連法規の遵守状況については内規にて1年に1回確認（8月度）を行っており、これまで問題も無い。
事業活動に係る法令の遵守の状況	評価・見直しの必要性については、原則として1年に1回検討している。この中で2014年度より原単位の指標の分母を乾燥機チャージ数から生産重量へ変更した。これは工場全体の指標として生産重量の方が、より適切であると判断したためである。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。